

## 令和 7 年度「学校推薦型選抜 I」講評

### 1. 小論文

#### (1) 方法

本年度の小論文課題では、近年の伝統行事に関する新聞記事を課題文として提示した。受験生には、新聞記事から読み取れる変化と課題を整理した上で、今後地域の伝統行事がどうあるべきか、自分の考えを述べることを問うた。

この課題は、課題文を読み、問題の背景や論点を的確に理解できるか、自分の意見を明確かつ論理的に表現できるかといった観点から、本学のアドミッション・ポリシーに則り、広く社会の課題の探究と解決に、主体的に取り組む姿勢を持っているかを確認することを目的として作成した。

#### (2) 結果に関する評価

評価のポイントは、①課題文で提示された伝統行事の変化と課題を整理できているか、②資料から読み取ったことを踏まえて、自分の意見を具体的に述べているか、③一貫した論理展開になっているか、であった。

そのため、課題文に提示された内容を十分に理解し、課題に的確に答えているもの、自分の知識や経験に基づき説得力のある論拠を示しているもの、地域の伝統行事に対する広い視野を持ち独自性のある議論を展開しているもの、文章表現や構成がしっかりと考えられているものは高い評価となった。

一方、課題の指示から外れた答えになっているもの、主張が不明瞭なもの、主張の根拠が不十分なもの、同じ主張が繰り返され論理的な展開がなされていないものは評価が低かった。また、段落の使い方などの構成力が不十分なもの、指定された字数を極端に逸脱しているもの、判読困難な乱筆、誤字脱字が多いものなどの文章の基本的な部分が守られていないものも低い評価となった。

### 2. 個人面接

#### (1) 方法

1人あたり約20分で面接を行った。評価の基準は次の3点であった。

##### ① 表現する力

自己推薦書やアピール・ポイントの内容をわかりやすく表現しているか。

面接員の質問に対して、自分の考えを簡潔かつ具体的に表現できているか。

##### ② 面接の態度

相手の発言をしっかりと理解しようとする態度があるか。

対話に参加しようとする姿勢であるか。

##### ③ 適性や意欲

入学への真の意欲があるか。

「大学案内」などによってカリキュラムの内容を理解しているか。

## (2) 結果に関する講評

上記の3つの基準を踏まえて評価をした。その結果、面接員のコメントは下記のようなものであった。

### ①「表現する力」に関するコメント

高校での3年間において、自ら力を入れてきたことや自分のアピールポイントなどについて、紋切り型ではなく、自分の言葉を用いて行なった受験生には高い評価が与えられた。また、自分の将来の目標と本学のカリキュラムとの整合性について具体的な説明が行った受験生にも高い評価となる傾向にあった。しかしその反面、本学のカリキュラムについての理解不足や、自分の将来へのビジョンと本学のカリキュラムとの整合性や具体性に欠ける物や、志望動機が曖昧な受験生には低い評価となる場合が多かった。受験生には、本学の学びについての理解と将来のビジョンを具体的に自分の言葉で表現できることを期待したい。

### ②「面接の態度」に関するコメント

面接の態度については、緊張して多少受け答えがぎこちなくても、真摯な態度で対応すれば低い評価とはならない。重要な点としては、面接員からの質問に対し、きちんと答えることが重要で評価されていた。逆に、質問に対して見当違いの返答などを繰り返すと評価を下げていた。

### ③「適性や意欲」に関するコメント

面接において、最も重視されることとして、本学へ入学したいという意欲が感じられることが重要である。ただし、それに見合うだけの本学の学びについての理解も求められる。本学のディプロマ・ポリシー、アドミSSION・ポリシー、カリキュラム・ポリシーの理解はもちろんのこと、学びの特色（リベラル・アーツ教育など）について十分理解しておくことが必要である。また、できるだけ入学後に学びたい科目やゼミ、教養課程（グローバル人材養成プログラムと現代教養科目群）と専門課程（言語・文化、メディア・コミュニケーション、国際政治経済という3専攻）などを理解しておくことが重要である。面接員においては、本学の学びに関する理解の欠如は、入学者としての適性の欠如と評価される傾向にあった。ただし、本学の学びについては、パンフレット等の内容の暗記となつてはならず、できるだけオープンキャンパスや本学の様々な活動を通じて得た情報を基に理解してほしい。このような点を十分理解した上で、自分の将来のビジョンと本学の特徴との整合性について、表現できる受験生には高い評価が与えられた。また、入学後の本学での活動についても、明確かつ具体的なビジョンを持っている受験生が、より入学意欲が高いと評価される傾向にあった。受験生には、さまざまな方法で本学での学びを十分理解した上で、自分が本学の環境において、どのように成長したいか自分の言葉で意欲を伝えてほしい。